

優秀賞

須藤 京介(すどう きょうすけ) 東浅川小 3年生

作品名:スタンリーとウィル

図書:スタンリーとちいさな火星人

この夏、小学校一年生になった妹は、はじめて読書かんそう文にちょうせんします。ぼくは、そんな妹の手助けをしようと、えらんだ本をいっしょに読んであげることにしました。スタンリーとちいさな火星人。

とまりがけで、仕事に行くお母さんに、すなおにさみしいと言えず、火星人としてすなおになれない気持ちをぶつける少年のお話でした。ぼくは、このお話の中でてくる、スタンリーの兄ウィルのやさしさに、ぎもんをもちました。

ウィルは、スタンリーが火星人だと言ったときに、スタンリーの言っていることに話を合わせて、つきあってあげるというやさしさを見せました。ぼくも、妹が言ったら、つきあってあげます。でも、カセイ人は手もあらわない、すききらいもする、おともだちともけんかをしてしまう。それを、だまってみてるのは、やさしさではないと思います。

夏休み中、お父さんもお母さんも仕事があり、ぼくは妹と2人でおるすばんです。2人で勉強をして、おうちの仕事もやります。その中で、妹がさみしい思いをしていないか心配になって、ぼくが不安になることもあるけれど、そんな時はいっしょにあそびます。2人で、おうちのルールをまもり、いっしょにおるすばんができた。そういう事を、お父さん、お母さんにほうこくしたいから、ぼくができる事は、しっかりしたいと思っています。

ウィルはやさしい。でも、弟のスタンリーのめんどうを見るという所がたりなかったのではないか。というのが、ぼくが感じたぎもんの答えです。

ぼくは、これからも、妹のめんどうを見て2人で、なかよく楽しくすごせる兄妹でいたいと思います。そして、妹がさみしいと思った時に、すなおに言える、言ってもらえる、そんなお兄ちゃんになりたいと、この本を読んで強く思うことができました。やさしいウィルも、きっともっとすてきなお兄さんになると、ぼくは信じています。

